



翔空くんを囲んで記念撮影



町の人口 40,000人 突破

とあ
～ 40,000人目の町民は岡田翔空くん（大針）～

平成19年12月18日に、伊奈町の人口が町制施行以来38年目に、ついに40,000人目を突破しました。

記念すべき40,000人目の町民となったのは岡田貴司・郁実さん夫妻の長男翔空（とあ）くんです。

22日に野川町長が岡田さん宅を訪れ、翔空くんには、野川町長から40,000人目の町民である誕生の証と記念品が贈られました。（写真）



父親の貴司さんは、「お話をいただいた時はびっくりしました。名前には、どうして翔と空という字をつけたか。名前のように大きな心を持って成長してもらいたいです」とコメント。野川町長からも「ご両親の温かい愛情に包まれ、自然豊かな伊奈町で健やかに育っていくことを希望します」というメッセージが贈られました。

今後翔空くんが健やかに成長されることを願っています。本当におめでとございました。

人口40,000人
までのみちすじ

私たちの住む伊奈町は、近年、埼玉県内でも人口増加が著しく、増加率は常に上位にランクされる町で、推計人口調査（平成19年11月1日現在の人口）においても県内第2位の高い伸び率（0・26％）を示しています。

また、国勢調査における増加率においても、17年調査時（36,535名）と12年調査時（32,216名）の数値では、県内第2位（4,319人増、13・41％の増加率）となっています。さらに17年調査時からこの2年で約3,500名もの増加となるなど、今まさに伸びゆく町といえます。

では、昔の伊奈町はどのような姿だったのでしょうか？当時の写真などの資料を通して、40,000人までのみちすじを振り返ってみましょう。

昭和40年代
～農村から都市部へ～

伊奈町は、昭和45年11月1日に町となりました。当時の人口は10,112名（45年国勢調査）であり、村から町へ変貌を遂げつつも、自然豊



かな風景が残る町でした。

表紙の写真は町制施行時の伊奈町役場です。木造平屋建ての建物が時代を感じさせます。また、所在地も現在の場所とは異なり、総合センターの敷地にありました。

写真 は、志久交差点から北に向かって、木造の小室小学校を上から見た航空写真です。新幹線がまだない時代、豊かな緑と田園風景が広がっているのがわかります。

昭和50年代

区画整理、新幹線の開通

昭和50年代になると現在の栄・寿地区の区画整理事業が始まったことを受け、住宅やマンションの建築が進むとともに、東北・上越新幹線が開通し、それに伴うニューシャ



トルの開通などによって、人口が飛躍的に伸びた時期でもあります。

写真 はサンライズマンションから見たさいたま栗橋線（当時は大宮栗橋線）です。現在ある歩道橋もこの頃はまだありません。また、下の2枚は本町2丁目周辺の写真です。・を見比べてみるといろいろな変化が見られます。昭和50年国勢調査人



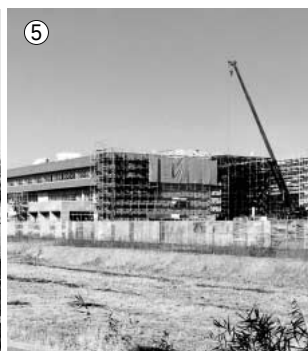
口は14,220名。昭和55年国勢調査人口は21,005名と町は、いよいよ人口20,000人時代を迎えます。

昭和60年代

中部、北部地域の開発

昭和50年代に引き続き、人口は増加の一途をたどっており、区画整理も本町地区、中部地区（役場周辺）、北部（羽

貫、内宿地区）と次々に進み、町の風景も一変してきます。写真 は現在の県民活動総合センターの建設風景、そして写真は記念公園内にあるアスレチックの写真です。

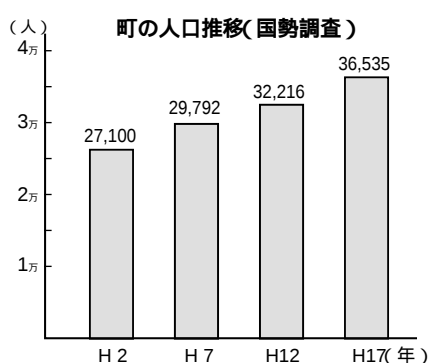


現在の小針北小学校や住宅地が広がる風景、そして公園内の生い茂る樹木をこの写真から想像することはできないかもしれません。ちなみに昭和60年の国勢調査人口は23,867名です。

平成から現在

各地区の区画整理等によって、人口増加のスピードは加速度を増していきます。また、専門学校や高等学校などの学

校施設も町内に続々と誕生し、学園都市としての側面をも見ることが出来ます。さらに憩いの場としての記念公園バラ園も充実が図られ、県内最大級の種類を誇るまでになり、町民自慢の施設となってきました。そのほか、「安心安全・住みよいまち」を目指し、各地域への「安心安全ステーション」の開所、自主防災組織の結成・充実、循環バスの運行など、あらゆる側面から伊奈町は発展を続けています。また人口も発展に比例しており、左のグラフの平成の国勢調査人口が示すとおり、着実な成長を遂げているのがわかります。



いかがだったでしょうか。紙面の都合上、今回紹介した写真はほんの一部でしたが、昔の伊奈町を少しでも感じることができたなら幸いです。